



# あなたはどのパターン？

書籍や雑誌の原稿を執筆する際、知り合いの方々のことを書くことが多いです。（もちろん個人名は勝手に出していませんのでご安心ください。）

素敵な取り組みや、真似してみたいと思う実践、さらにはふとした会話から学ばせてもらったことなどなど。

出会って、学びの宝庫だなあとよく思います。

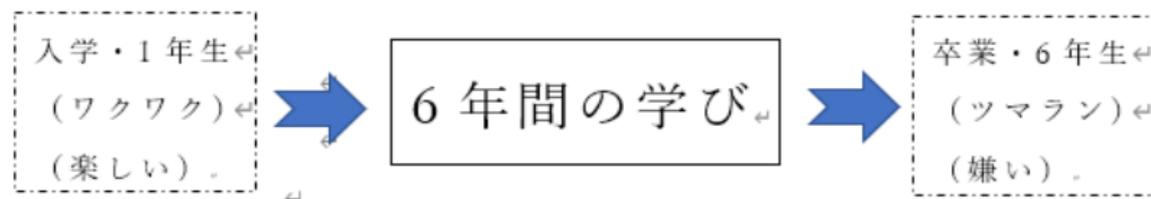
以前、ある先生がこんな風につぶやいていたことがありました。

「(小学校)1年生って、勉強に対してものすごく“ワクワク”してるじゃん。『明日は漢字の勉強だ!』とか『早く算数やってみたい!』とか。教えたことにもすごい反応があって「わかったー!」とか「楽しい~!」って喜ぶでしょ。でも、そういうワクワクいっぱいの子たちが6年間経つと大体みんな『勉強』=『つままない』になって卒業していくのって、どうしてなんだろうって思うことがあってさ。そう考えると、学校の責任ってすごく大きいと思うんだよね。」

数年前、同僚の先生から職員室で聞いた話です。

その先生の素直な問題意識を聞いて、「確かになあ」と深く共感した覚えがあります。

この話を図に表すと、こうなります。



一体、6年間のブラックボックスの中には何があるのでしょうか。  
 何が、子どもたちの勉強に対する思いをこれほどまでに変えてしまうのでしょうか。

もちろん要因は様々あるのは間違いありません。

私は、その中でもひととき大きな3つの要因があると思っています。

一つが授業、一つが評価、そしてもう一つが宿題です。

この話はすべて書くとおそらく本数冊分になってしまうので、今回は「授業」のことに絞ってできる限り端的に書いてみます。

啓発本等ではよく、他責と自責、ネガティブとポジティブのような「心の在りよう」が書かれていますが、仕事の成果を得やすく、問題を乗り越えやすいのは「ポジティブ&自責」だといわれます。

マトリクス図だとこんな感じ。

	他責	自責
ネガティブ	批判的・攻撃的  周りを責めてばかりで文句が多い 「悪いのは自分以外」思考	自虐的・悲観的  誠実だが自分を追い詰めがち 「悪いのは自分」思考
ポジティブ	楽天的・静観的  状況は変わりにくいが余裕はある 「だって自分のせいじゃないし」思考	生産的・創造的  問題を乗り越えやすい 「自分に今何ができる？」思考

すべての局面を「ポジティブ&自責にしよう」という偏った話ではもちろんありません。

心を穏やかに保つためには、適度な他責やネガティブも大切だといえます。

特に、人に対してではなく環境面を修正・改善をする場合には適切な他責の思考が無ければ局面は打開していきにくいと言われています。

でも、個人としての生き方や考え方の基本スタンスとしては「自分に今何ができるか」という前向きな自責思考ができるようになりたいと思うのです。

なぜなら、その方が成長や喜びが生まれやすく、自分の達成感や充実感にもつながっていきやすいからです。

例えば、自分がプロの料理人だとします。

自分の作った料理に対して、お客さんが「マズイ！」と反応したとしましょう。

その時の反応を先の 4 象限に照らすと次のようになります。

### ①他責&ネガティブ

「俺の料理じゃなくてあの客の舌が悪い。まったくとんでもない客だ。」

### ②他責&ポジティブ

「ま、そんな客もいるよね。この味を理解できない人もいるっしょ。」

### ③自責&ネガティブ

「俺には料理の才能が無いんだ…。もう料理なんてやめてしまいたい…。」

### ④自責&ポジティブ

「悔しい。よし、どうすればこの料理が美味しくなるかを今から考えよう。」

やや極端に書きましたが、おそらく多くの方がこの 4 タイプをイメージできるのではないかと思います。

もちろん、自分という人間の中にも複数のタイプがあって、場面ごとに色々な自分が引き出されるというパターンもあるでしょう。

ここで大切なことは、「その考え方を続けた時にどのような人生が待っているか」をイメージすることです。

上の①～④の料理人の中で、もっとも深刻というか、お店がつぶれる危険性が最も高いのは①だと言えるでしょう。

そもそもお客さんの舌を責めている時点でプロ失格という感じもしますし、このように仕事をし続けている限りおそらくこのお店は長続きしません。

次いで危ないのが、③でしょう。

自分にベクトルは向いているわけですが、具体的なアクションにつながっていません。

ある意味「悩んでいるだけで改善なし」の状況に陥りやすい典型例とも言えるでしょう。

名著「イシューからはじめよ」の中には次の内容が書いてありました。

悩むとは、答えが出ないという前提の元に考えるフリをすること。  
考えるとは、答えが出るという前提の元に建設的に考えを組み立てること。

自責&ネガティブのパターンは、「悩む」ことが多いのだとも言えます。  
悩んでいるので同情もかきますし、手助けをしてくれる人も出てくるでしょう。

でも、答えが出てこないのです。

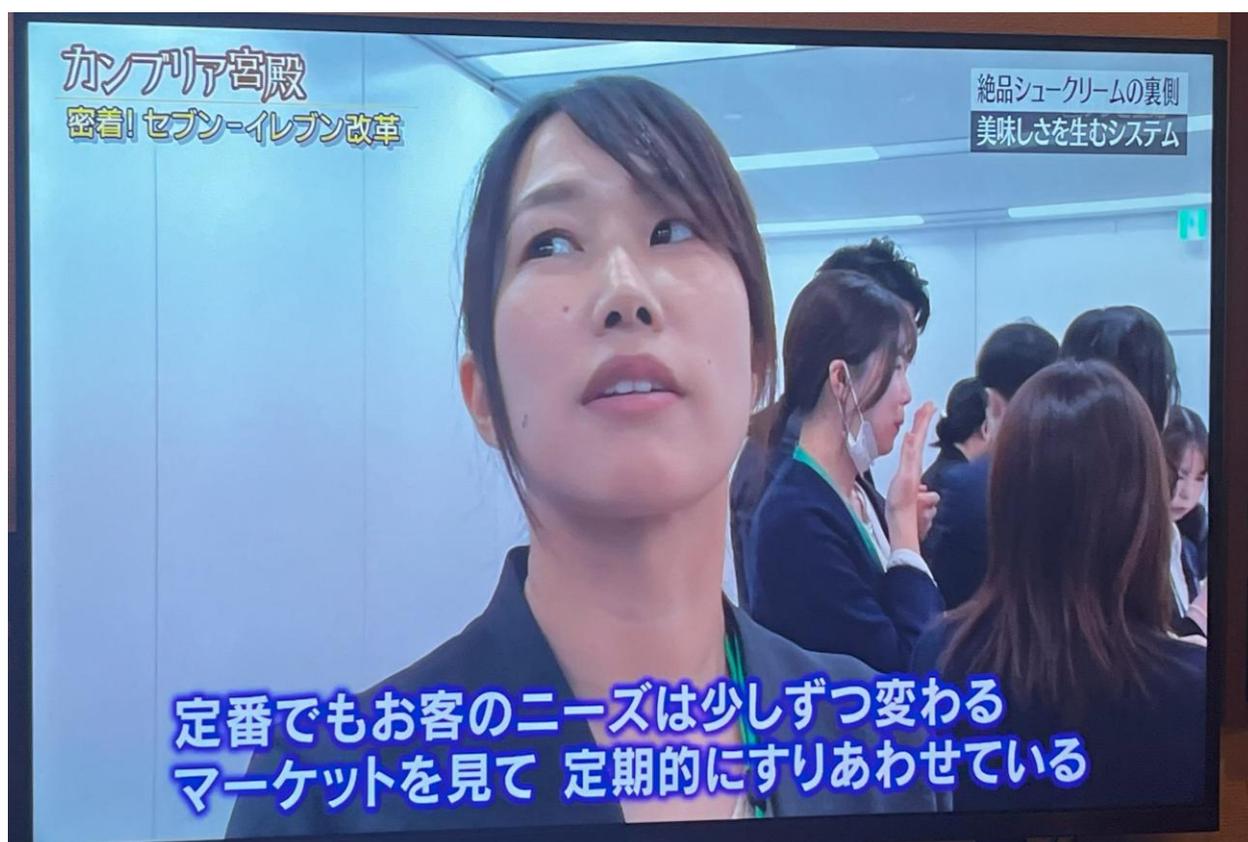
それは、先の著書に照らして言えば、「答えが出ない」という前提に立ってしまっているからです。

②のパターンは、意外と長続きすることもあります。

精神衛生上、多くのストレスを抱え込むことが少ないからです。

料理の味がよければ、特に問題なくお店が続いていくことも考えられるでしょう。

でも、肝心の料理にブラッシュアップがなされなければ、「繁盛」にはつながりにくいかもしれません。



先日、カンブリア宮殿にてコンビニ最大手のセブンイレブンの特集がなされていました。

驚いたのは、その商品づくりへのこだわりです。

圧倒的な人気を誇る「シュークリーム」があるそうですが、その商品にこの1年だけでも4回ものリニューアルを施しているのです。

生地の触感、クリームの口当たり、こうしたことを一度のヒットで慢心せず定期的にブラッシュアップをするのだと番組で紹介されていました。

普通、「これが最高においしい！」となれば、そのまま売り続けた方が得策のようにも思うのですが、王者はそこが違うのですね。

①～④の中で、唯一料理が美味しく変わっていくのが、④です。

「今、自分に何ができるか」という思考で仕事に取り組んでいくと、自然とその内容は改善され、成長していきます。

これは、「授業」でも同じですね。

子どもたちが、「つまらない」と騒いだり、話を聞いてくれなかったり、思うように内容が伝わらなかった時。

①～④のどの思考で自分の授業を受け止めるかで、未来は大きく変わります。

もちろん、これは受ける側でも同じです。

どんなにつまらない授業であったとしても、そこに対する反応は自分自身が決めています。

「つまらない授業が悪いんだから僕は悪くない」と思うのか。

「僕にはきっと勉強が向いていないんだ・・・」と思うのか。

「どんなに授業が騒がしくても僕には関係ないし」と思うのか、

「この授業を受けて今の自分に何ができるだろう」と思うのか。

それは、いつだって自分の「考え方」「選び方」が決めているのです。

仕事も勉強も、同じですね。

☆ ↓ 読者ページはこちらから ↓ ☆ ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

